

## 係わり合う時の「構え」と「間」の重要性

今はある大学の教授である元学生から、「献本させていただきます。学生・院生時代にご指導いただき、感謝しています。」の言葉と共に、彼の著書「重症児の発達と指導」が届いた。

「コミュニケーションとは、受信したことを、なるべく間を置かずに相手に伝えること。」をモットーとしているだけに、次のように返信した。

【 ご著書、一気に読ませていただきました。】

百花総覧の感がなきにしもあらずですが、「まえがき」に、「重症児とのかかわりをはじめようとする人に向けて書くことを意識し、……」とありましたので、それだけに工夫が見られ読み易く、そうした教師たちにはヒントを示唆する書になっていると思います。

さて、「まえがき」に「その自己実現をたすける方向でより添っていくことが大切だ……」とありますが、教師自身が自らの自己実現をどう具体的に考えるのかをまず聞きたくなる最近の私です。

自らの自己実現とはどういうことかを意識していない教師が、対象の生徒、学生、重症児の自己実現をたすけるなんてこと出来るはずがないと思います。

なぜ聞きたくなるかという、例えば、いじめ問題等で「命を大事に考えて……」と話す教師は多いですが、「じゃあ、命ってどうお考えですか？担当教科の授業の中でどう触れているのですか？」と聞くと、応えに詰まる教師が案外多いことを目にしているからです。

もちろん、こんな問いに正解なんてありえませんが、その教師の考え、想いを自らの言葉として子どもたちに語らずして、「命の大事さ」が伝わるのかなあと思う私です。

書の所々で、教師の係わりを子どもが受け止める「構え」ができる「間」の重要性に触れていますが、私が聞きたくなることは、子どもたちと係わり合う前の「間」として、教師自身の「構え」をまず問うていることとも云えます。

次の著書刊行の折は、こうした教師自身の「構え」について、君なりの想いで語りかける「章立て」を検討してみてください。】

来夏、彼は講演のために来仙するようなので、再会して大いに教育談議をしたい！今から楽しみ！！